



41年に完成した山谷人道ご線橋



市制5周年で街を行く旗行列(本町1・2交差点で)

な、当時の年間収集量は千七百二十トンで、一トン当たりの処理経費は五百八円、現在では、およそ九倍にもなる一万五千三百トンで、一トン当たりの経費は一万二千円にもなっています。

ところが、ゴミの量はそのころからどんどん増えてきて、委託先の施設ではとてもまかないきれないほどになりました。そこで市では、三十四年のトシ、一日の処理能力十五トンという初めての炉を、また四十二年には三十トン炉を現在の場所に建設しました。この間には、北上部落の埋外地を借りて投棄埋立てなども行っていました。

それでも四十五年になってからは、他の市町村に先がけて、全市域のゴミ収集にふみきました。しかし、使い捨て時代に影響されてか、ゴミの増え方は早く、それに燃えにくいゴミも多く出まわっているようになって、十五トンと三十トン炉の処理もパンク寸前、当時ではとても考えられないほどの量にまで増えました。そこで四十九年に、一日四十トンも処理できるという二つの炉を建設したことは耳新しいことだと思います。

市でのゴミ収集体制はというと、手車八台、冬季に備えてソリ八台、収集に不便なところは、公設の塵芥箱が設けられていました。

当時のゴミ収集は「大八車」で

あふれるほどの「ゴミの量」。現在では、その処理に手をやっています。ゴミの収集・処理をふりかえてみると二十六年当時は「大八車」でもそれ雪が降るとソリで引っぱっては集め、その処理も民間の焼却施設に委託していました。

市のおこの間には、毎年のように校舎の新築や増・改築が続けられ、整備されました。

また三十四年には、小合東幼稚園が開校されて、市内での児童・生徒数はこのころが最も多いときでした。三十八年に県立工業高校が開校されましたが、児童・生徒数は三十四年をピークにだんだんに減ってきて、四十年には小合西小と南小がいっしょになって小合小学校に、また四十二年には四中も二中に統合されて教育効果の向上がはかられました。



経営規模別農家数

	市制当時	50年
0.3未満	209戸	260戸
0.3～0.5	157	316
0.5～1.0	377	615
1.0～1.5	380	394
1.5～2.0	364	377
2.0～3.0	272	565
3.0～5.0	26	217
5.0～10.0		17
合計	1,785	2,761

※市制当時は 25年農林業センサスから

※50年は 50年農林業センサスから



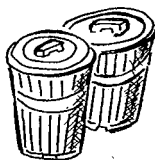
〈自動車〉

26年…76世帯に1台
50年…1世帯に1台

	25年	50年
乗用車	21	8,701 (軽含)
貨物車	60	4,404
バス	10	107
特殊車	—	267

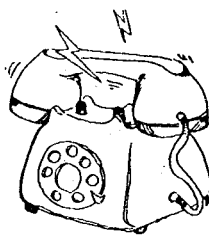
25年…市勢要覧から

50年…交通年鑑から (50.1.1現在)



〈ゴミ処理量〉

26年…1日に4.8トン
50年…1日に41.0トン



〈電話〉

26年…15世帯に1台
50年…1世帯に1台

お買物、ご用命は市内で



民間車検場・保険・板金・塗装

中古車
特売中!!



只今クーラーの
予約受付中
お支払いは夏の
ボーナスで!!

東芝・ナショナル・サンヨー 1台3役+加温 (理髪・加温) >ドライ>冷凍



(株)遠山商会自動車部



(株)遠山商会電気部

新津市善道町2丁目

TEL 代表 (2) 3355